

2004 年の厚岸町におけるゼニガタアザラシ *Phoca vitulina stejnegeri* の漁業被害および混獲死の状況

齋藤幸子・山田京子

帯広畜産大学畜産学部獣医学科
ゼニガタアザラシ研究グループ

Harbor seal (*Phoca vitulina*)は北半球に広く分布しており、地理的に 5 亜種が認められている (Bigg, 1981)。このうち、ゼニガタアザラシ *Phoca vitulina stejnegeri* (以下ゼニガタ) は、北海道からカムチャツカ半島に分布する陸上繁殖型のアザラシである。北海道では太平洋東部沿岸で 1 年を通して観察され、日本では唯一繁殖する。環境省のレッドデータブックでは絶滅危惧種 IB 類に指定されている (環境省 2002)。1940 年代に少なくとも 1500 頭確認されていたゼニガタは、1980 年代には 400 頭未満まで減少した (伊藤・宿野部, 1986)。1980 年代以降は徐々に増加傾向にあると考えられる (齋藤・渡邊, 2004)。

厚岸町には、ゼニガタの上陸頭数が 2 番目に多い大黒島が沖合 7km ほどに位置し、他に 2 ヶ所の上陸場が存在する。近年の個体数調査では、厚岸町には少なくとも 200 頭のゼニガタが観察されている (ゼニガタアザラシ研究グループ、未発表)。

ゼニガタの漁業被害については 1980 年代から道内各地で研究が行なわれており、厚岸でも 1984 年に新妻昭夫氏により調査が行われている (新妻, 1986)。その後、近年では故上金氏 (ゼニガタアザラシ研究グループ OB) による聞き取り調査が行われるのみであったが、2003 年にはゼニガタアザラシ研究グループ (以下ゼニ研) によりゼニガタの混獲数および被害状況の予備調査を行なった。 (ゼニ研、未発表)

本稿では、2004 年の厚岸町におけるゼニガタの混獲死および漁業被害状況を報告する。